

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 理念、教育目的が新中期計画と矛盾していないか2010年度中に点検し、矛盾している場合2013年度中に再設定する。	→再検討結果の報告書。	C	C	/	/	/
2. 理念、教育目的を教員及び学生に対して2010年度中に周知徹底する。	→公表したホームページ。	B	A	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 【理工学研究科の理念】 自然科学の基本原則とその応用について先端的研究をおこない、自然科学の発展と人類の進歩に貢献する。 【理工学研究科の目的】 1) 数学、物理学、化学、情報科学、生命科学の幅広い分野にわたり、それぞれの分野が有機的に連携しながら、基礎的研究から応用的研究まで、常に最先端のレベルの高い研究を行う。 2) 専攻分野における深い知識と高度な研究能力を身につけるとともに、専攻分野を超えた幅広い知識を修め、広い観点に立って研究を行うことができる高度専門職業人や研究者を育成する。 3) 理工学研究科の教育と研究は社会との繋がりの中にあることを常に意識し、研究成果を学界、教育界、産業界等社会に広く還元していくとともに、企業等で活躍する若手研究者を始めとする社会人学生の受け入れ、さらには国際社会との連携を推進するための外国人学生、外国人研究者の受け入れに積極的に取り組んでいく。 4) 特別実験及び演習 (前期課程・修士課程)、数理学基礎研究 (博士課程前期課程)、特別研究 (後期課程) を理工学研究科の教育と研究の中心に位置づけ重視する。このなかで、それぞれの分野での最先端の研究に携わり、新しい未知の問題を発見し、それを探求し、解決していく能力とその成果を社会に活かしていく応用的能力を養う。 (説明) 上記のように理念・目的は明確化している。ここから策定した大学院のディプロマポリシーと新中期計画の「KG学士力」及び学部のディプロマポリシーとの整合性を検討中である。
	小項目0.0.2

小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	(説明) 大学・研究科の理念・目的の適切性について、学部長室委員会及び研究科委員会において定期的に検証している。
その他	

《評価指標データ》

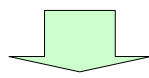
本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価
 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

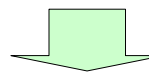
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	社会との繋がりを強化するため、理系を拡張し応用分野の更なる充実を図る。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	学生増も視野に入れた理系分野の拡張を検討し、新中期計画の前期終了年度（13年度）までに方向性を決定する。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

その他 (自由記述)	
---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○研究科の理念・目的の点検について、今後の進展が望まれます。

【学内委員】

○目標2の進捗度評価がAであるため、効果が上がっている項目での説明が必要です。理工学研究科の理念・教育目的は学部内ではきちんと設定され、大学構成員に対してもHPなどで適切に公表されていると思われ、この点は大いに評価できます。さらに、理念や目的についても定期的に検証が行われている点も大いに評価できます。進捗評価がCとなっているのはKG学士力との整合性がまだチェックできないため、現時点では大きな問題ではないと思われ。

○昨年度も「理工学研究科の理念・目的を記載しているHPの更新日付は2006年9月11日となっており、数理科学専攻の紹介がありません。その点を鑑みると、理念、教育目的の周知徹底に対する進捗評価は「A」で正しいのでしょうか？」という指摘がありますがその状況は現在も変わっていません (http://www.kwansei.ac.jp/s_sci-tech/s_sci-tech_000522.html)。

○理念・目標が設定され、周知・公表、検証も行われており評価できます。今後は、どれほど学生や社会に周知されているかを測定され、理念・目的が浸透するよう一層工夫されることを期待します。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

0.02(現状説明)

2009年度以降、理工学研究科において専攻の数が増え、教員及び学生の数が増えた。さらに、新任の教員も多数採用されたので、理念・教育目的を確認することで、新しい理工学研究科の今後の教育についてのコンセンサスを得ることができた。

★0.02(現状説明)

数理科学専攻を反映させた理念・目的・教育目標は理工学研究科ホームページ上

(<http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/about/index.php?id=21>) に掲げている。